

# 2021年度 前期 漢検 漢字文化研究所 連続講座 第7弾

聴講料(入館料込み)  
一般 各回 1,500円  
学生 各回 1,000円  
  
年パスお持ちの方  
一般 各回 800円  
学生 各回 600円

## 古代日本と漢字

日本語は漢字と出会うことでどのような変化をとげてきたのでしょうか。今回の講座では、日本語と漢字との関わりについて、日本語の歴史の専門家に、さまざまな角度から論じていただきます。

開講日	テーマ
4月17日 (土)	<b>古代の人々の言語生活</b> 7~8世紀、漢字で日本語を「書きとめる」すべを知った人々が、生活の中で、どのように漢字とともにあったか、さまざまな場面を想像してみましょう。 関西大学文学部 教授 乾 善彦
5月22日 (土)	<b>うたを漢字で書く</b> うたを文字に書くことは、歌声から歌詞を取り出すことにはじまります。そして歌詞の言葉が漢字という彩りをまといます。その装いを楽しんでみましょう。 京都大学国際高等教育院 教授 佐野 宏
6月13日 (日)	<b>漢字から仮名へ -「えびフライ定食」の謎!?-</b> 「えびフライ定食」という言葉。三つの字種と語種を交える複雑さを生み出すに至った経緯について考えます。 東京女子大学現代教養学部 教授 山本 真吾
7月25日 (日)	<b>漢文訓読が生んだ日本語</b> 漢文訓読という漢文を直訳しながら解読していく習慣は日本語の姿を大きく変貌させました。漢文訓読から生まれた様々な日本語を紹介します。 東北大学大学院国際文化研究科 准教授 ジスク・マシュー
8月21日 (土)	<b>国語辞書の誕生 -いろは引きの意味-</b> 平安時代の日本人にとって「漢字を読むこと／書くこと」の苦労はどこにあったのか、当時の日本人が作成した辞書を見ながら考えます。 京都府立大学文学部 准教授 藤本 灯
9月11日 (土)	<b>節用集 -時空を超える文化の方舟-</b> 漢字を引く辞書「節用集」は、漢字の方舟といえましょう。江戸時代に大発展した様子を御一緒に見てまいりましょう！ 岐阜大学教育学部 教授 佐藤 貴裕



乾 善彦

佐野 宏

山本 真吾

ジスク・マシュー

藤本 灯

佐藤 貴裕

時間は各回とも 14:00~15:30  
ご自身の都合に合わせて、ご興味のあるテーマのみの受講ができます。

※新型コロナウイルスの感染予防の観点から、受講者の定員を30名(先着順)とします。  
※当日の講座の様子を録画し、後日動画配信サイトにて配信します(有料)。

